

海老川市民会館等施設整備 事業に関する基本計画

令和7年7月18日
市民協働部
人権同和・男女共同参画課

目 次

第1章 はじめに	．．． P 2
第2章 経緯	．．． P 3
第3章 施設のコンセプト	．．． P 4
第4章 機能要件	．．． P 5
第5章 施設条件	．．． P 7
第6章 事業スケジュール	．．． P 10

第1章 はじめに

海老川市民会館は、昭和42年1月に建築され、地域社会全体の中で福祉の向上や人権啓発のための住民交流の拠点となる開かれたコミュニティーセンターとして、生活上の各種相談事業や人権問題解決のための各種事業を総合的に行っています。令和4年3月の社会福祉法改正により、重層的支援体制整備事業が開始され、同事業を進行するに当たり、これまで蓄積されてきた支援のノウハウや地域の多様な社会資源とのつながりが最大限に活用されることが望まれており、非常に重要な位置を占める施設となっていますが、建築から50年以上が経過し、老朽化が著しく耐震化対策が必要になっています。

また、海老川老人福祉センターは、地域の高齢者を中心に健康で生きがいをもって生活できるように支援するための公共施設として、昭和53年に建築（平成12年に一部増築）されましたが、現在47年が経過しており、地盤沈下や異なる構造体の増築による擁壁、外壁及び内壁のクラック、木造床のたわみ等構造上の不具合が著しくなっています。

本市における「高知市公共施設マネジメント基本計画（令和3年8月改定）」では、「安全安心で将来にわたり持続可能な公共施設サービスの提供」という目的を実現するための方向性の一つとして、【総量の最適化】を公共施設マネジメントの基本目標としており、「市民サービスの視点から必要な機能を検討するとともに、将来にわたり継続的に利用できるような財政的な裏付けのもと、総量の最適化を図る。」としています。

この方針に沿って、海老川周辺の隣保事業及び社会福祉施設として重要となる海老川市民会館及び海老川老人福祉センターの機能を複合化する方向で検討を行いました。

本計画は、関係各課と協議を重ねて、地元住民等に対する説明会等を開催し、地元や利用者等の要望も取り入れてまいりました。

このように、本計画の策定に当たっては、様々な形でいただいたご意見をできる限り尊重し反映させながら策定しました。

第2章 経緯

本市の市民会館は、社会福祉法に定められた隣保事業を行う「社会福祉施設としての隣保館」であり、これまでの同和問題解決に向けた取組みだけではなく、管轄する区域全体の住民を対象に設置運営要綱や条例に定められた事業を総合的に実施しています。

しかしながら、本市の市民会館は、建築から40年以上経過した施設が多く、平成28年度の春野弘岡中市民会館耐震改修工事から始まり、市内の市民会館について建築年度が古い施設を中心に順次改修を行ってきました。

海老川市民会館は、令和2年度頃から方向性について本格的に検討を始めました。築50年以上経過した市民会館の長寿命化は困難であることから解体することが決まり、隣接した老人福祉センターを耐震補強による増改築で長寿命化を実施するのか、あるいは、両施設とも解体し新築による複合化を実施するのかを検討しました。

※添付資料参照

それぞれの施設で重複する設備や必要な機能等を確認し、延べ床面積等を求め、新築案と、改修及び増築案にてライフサイクルコストによる比較をした結果、長期的な視点では、新築案が安価である試算結果となりました。

加えて、新築の方が駐車場等も整備される等のメリットが多くなります。そのような状況の中、令和6年7月22日の一部庁議で新築による複合化が決定しました。

新築による複合化が決定した後は、地元説明会を複数回実施するだけでなく、施設利用者等にアンケート等を実施して、要望を取り入れました。

第3章 施設のコンセプト

1 施設のコンセプト及び整備方針

本計画においては、海老川市民会館及び海老川老人福祉センターの新築による複合化に向けて3つの施設コンセプト及び6項目の整備方針を掲げています。

【コンセプト】

『高齢者をはじめ幅広い世代の利用者が過ごしやすい市民会館』

『福祉と人権を尊重した交流が生まれる市民会館』

『いつでも安心して過ごせる市民会館』

【整備方針】

- ①各種事業の安全・円滑な実施と、市民サービスの向上を図るために施設の複合化を実施する。
- ②「高知市公共施設マネジメント基本計画」に掲げた基本目標である、施設の「管理の最適化」、「機能の最適化」、「総量の最適化」に向け、市民会館と老人福祉センターの集約化を実現させることにより、将来にわたる持続可能な公共サービスの提供を可能にする。
- ③高齢者や障がい者等も利用しやすい木造平家建てとし、駐車場等も整備して訪れやすい施設とする。
- ④地域活動の拠点となるべく、今まで市民会館を利用していなかった地域の方々に気軽に立ち寄ってもらえるような開かれた市民会館を目指す。
- ⑤ほぼ毎日高齢者向けの給食サービスを実施しており、利用者也職員も利便性が高まる市民会館を目指す。
- ⑥地元及び利用者目線での意見を尊重するため、地元等に対する説明会を複数回実施する。

第4章 機能要件

1 施設概要

施設及び諸室については、以下のように定めました。

(1) 用途 市民会館（隣保館設置運営要綱等に基づく隣保館）

(2) 構造 木造平家建て

(3) 諸室

分類	諸室
貸室	会議室，調理コーナー，教養娯楽室（食堂）
共用部分	玄関・廊下等，サロン，相談室，トイレ，物入れ
専用部分	事務室，給食調理室・控室，洗濯置き場
付帯施設	駐輪場，駐車場

2 インフラ環境

種別	建設敷地概要		複合化施設
電気	低圧引込（高圧引込も可）		施設内の設備に応じて最適な受電方式を選定すること
ガス	都市ガス供給エリア外		LP ガスを使用できること
水道	上水	整備済	上水
	下水	整備予定	下水
通信	電話等通信網の整備可能		施設に必要な電話等通信線を引き込むこと

3 建設場所



建設用地	高知市朝倉己 419 番 3 外
敷地面積	約 2,000 m ² (海老川市民会館・海老川老人福祉センター・ 海老川児童遊園の合計面積)
用途地域	第一種中高層住居専用地域

※既存の児童遊園は廃止する。

※防災倉庫は近隣に移転する。(設置場所は地元と協議する)

第5章 施設条件

1 各施設の条件

現在の市民会館及び老人福祉センターの機能を全て複合化後の施設で補うことが出来る想定で、9ページの表のとおり施設条件を設定します。

海老川市民会館の会議室では、卓球やダンスの練習、及び町内会等の会議での利用が定期的に行われています。特に卓球は非常に盛んであり、現在、毎週火曜日から木曜日に実施されています。そのため、現在2台の卓球台を設置し利用していることから、複合化後の施設でも最低2台は同時に利用できるスペースが必要になります。

現在の市民会館調理室は、年に8回程度のパン焼き教室等を実施していますが、頻度が少なく事務室の給湯スペースと共用する等の最低限のスペースを確保します。

老人福祉センターの食堂では現在、人権同和・男女共同参画課の「隣保館デイサービス事業」及び高齢者支援課の「なごやか宅老事業」として給食サービスを開館日のほぼ毎日実施しています。食事の前後では、「3B体操」や「いきいき百歳体操」、「しゃきしゃき百歳体操」等のレクリエーション活動も実施しています。複合化後の施設は、駐車場等が整備され利用が増えると予想されることから、平均で約20名、多い時で40名が利用している現在の人数を維持できる教養娯楽室（食堂）が必要になります。調理室は、現在の面積程度は必要と考えますが、設備面で利便性が向上すれば、面積削減は可能です。

また、施設全体としては、高齢者の利用が多いため、バリアフリー設計となるよう設定します。高齢者は家族等の送迎もあり、また雨天時でも容易に乗り降りができるよう、玄関前には屋根付きで送迎者が乗り降りできるスペースを設置し、スムーズな移動ができるようにします。

加えて、「高知市公共施設マネジメント基本計画」に基づき、必要な機能を確保しつつ、延床面積の削減も必要と考えます。2つの施設で重複していた部分（例：トイレ）や利用状況の低い貸室等は削除します。さらに、会議室と教養娯楽室（食堂）を繋ぎ、状況に応じて広く活用する等、機能を複合化する案も考えられます。こうした部屋機能の効率化・複合化も、施設の複合化において必要な方針と捉えます。

2 概ねの施設規模

現在の海老川市民会館の面積は268.40㎡、海老川老人福祉センターの面積は219.96㎡であり、2施設の合計面積488.36㎡となります。ここから、複合化したことに伴い不要となるスペースや兼用可能となる貸室等を考慮し、新施設の延床面積を最大388㎡として検討します。ただし、「高知市公共施設マネジメント基本計画」の考え方である約30%削減を目標として、可能な限り延床面積の縮小を図ることとします。敷地については、海老川児童遊園は廃止、防災倉庫は移転して利便性を向上します。

3 現在の施設状況

①市民会館

室名		面積	室名		面積
1階	相談室	36.80	2階	大会議室	65.60
	事務室	28.80		階段ホール	28.80
	便所	9.72		小会議室	36.80
	玄関ホール	19.08		階段室	2.00
	調理室	36.80			
	玄関三和土	4.00			
市民会館 小計			268.40㎡		

②老人福祉センター

室名		面積	室名		面積
1階	玄関	5.83	1階	調理室	30.00
	玄関ポーチ	9.52		浴室	7.29
	廊下	24.38		脱衣室	5.40
	倉庫	4.26		和室	65.49
	多目的トイレ	5.52		健康相談室	16.24
	トイレ	7.57		生活相談室	20.72
	管理人室	17.71			
老人福祉センター 小計			219.96㎡		

※施設に関する詳細は添付資料【海老川市民会館及び老人福祉センターについて】を参照

4 複合化後の各部屋の詳細な条件等

各部屋	主な利用	想定面積	備考・施設条件等
玄関・廊下	・利用者の玄関	44 m ² 程度	最大 40 名程度の靴箱があること。 玄関前には利用者送迎のための屋根（雨除け）を設置すること。
サロン	・談話コーナー	27 m ² 程度	談話コーナーとしてソファやテーブルを設置すること。 食堂と繋がる形で必要に応じて広く利用可能な形状とすること。
会議室 《貸室》	・卓球 ・社交ダンス ・会議	57 m ² 程度	卓球が 2 台以上同時に実施できること。
調理コーナー	・ 2 名程度の調理	40 m ² 程度	事務室の給湯スペースと共用する等、最低限のスペースを確保すること。
事務室	・常駐職員の事務室		職員が 2 名常駐し、電話機、複合機及び書棚を設置すること。 ※職員は現在 1 名だが将来的な人員体制に対応 書類等の保管スペースを約 10 m ² 程度を設置すること。
調理員控室	・委託先の調理員の 控室兼作業スペース		2 名が事務作業できるスペースを確保すること。 縦 2 人×横 4 人の合計 8 名分のロッカーを確保すること。 電話機及び複合機を設置すること。
相談室	・相談事の対応	9 m ² 程度	最大 4 名が同席し、プライバシーに考慮した個室とすること。
教養娯楽室(食堂) 《貸室》	・食堂 ・体操 ・会議	58 m ² 程度	最大 40 名が食事利用及びいきいき百歳体操等が実施可能なスペースを確保すること。 給食調理室と隣接等し配膳がスムーズにできること。
給食調理室	・給食サービスの調理室	35 m ² 程度	コンロは 7 口用意すること。 衛生面の観点から手洗い専用の洗い場を設置すること。 勝手口を設置し、食材等が容易に搬入できる駐車スペースを確保すること。 食糧庫（パントリー）を設置すること。
トイレ	・トイレ	22 m ² 程度	男性・女性・多機能とそれぞれ設置すること。
物入れ	・調理道具 ・清掃用具	42 m ² 程度	なごやか宅老事業で実施する物品や清掃用具を保管すること。
洗濯置き場	・洗濯機設置	4 m ² 程度	室内に設置スペースを確保すること。
駐輪場	・利用者の駐輪場	-	シニアカー利用者のため屋根付き駐輪場を設置すること。
駐車場	・利用者及び 職員の駐車場	-	15 台程度を駐車できるスペースを確保すること。
防災倉庫	・防災倉庫	-	現在の倉庫は処分し、新たな倉庫を設置すること。 設置場所は地元等と協議し決定すること。
その他	・動線 ・門柱	-	現在ある市民会館東側の北出入口の動線は確保すること。 北出入口の『海老川隣保館』と標記された門柱は移設等をして保存すること。

※今後の設計で、各部屋間における面積の増減は考慮する。

第6章 事業スケジュール

【財源】

設計委託 … 公共施設適正管理推進事業債を活用予定

解体工事 … 地方改善施設整備事業費補助金を活用予定

建築工事 … 地方改善施設整備事業費補助金を活用予定

	令和7年度				令和8年度				令和9年度				令和10年度			
基本計画																
基本・実施設計																
市民会館 解体工事																
下水道整備	令和8年度中に本管延伸完了予定															
複合施設 建設工事																
老人福祉センター 解体工事																
駐車場 整備工事																
運用開始													部分運用			
															本格運用	

工事については、まず市民会館の解体工事を行い、その間の市民会館の事務機能は老人福祉センターに移管します。複合施設が完成するまで「隣保館デイサービス事業」及び「なごやか宅老事業」は継続して行い、複合施設完成後は完成した施設で行うようにして事業が途切れずに実施するようにします。